

除染・モニタリング等の状況

- 1 内部被ばく量検査の結果
- 2 簡易分析測定器による食品の放射能レベルの測定結果
- 3 環境ガラスバッチによる住宅の放射線量の計測結果
- 4 農地土壌の放射線量計測について
- 5 ガンマカメラによる放射線可視化測定について
- 6 ガンマアイによる放射線可視化測定について
- 7 今後予定している放射線量計測について

平成25年11月26日
檜葉町放射線対策課

1 内部被ばく量検査（ホルムダイカッター検査）の結果

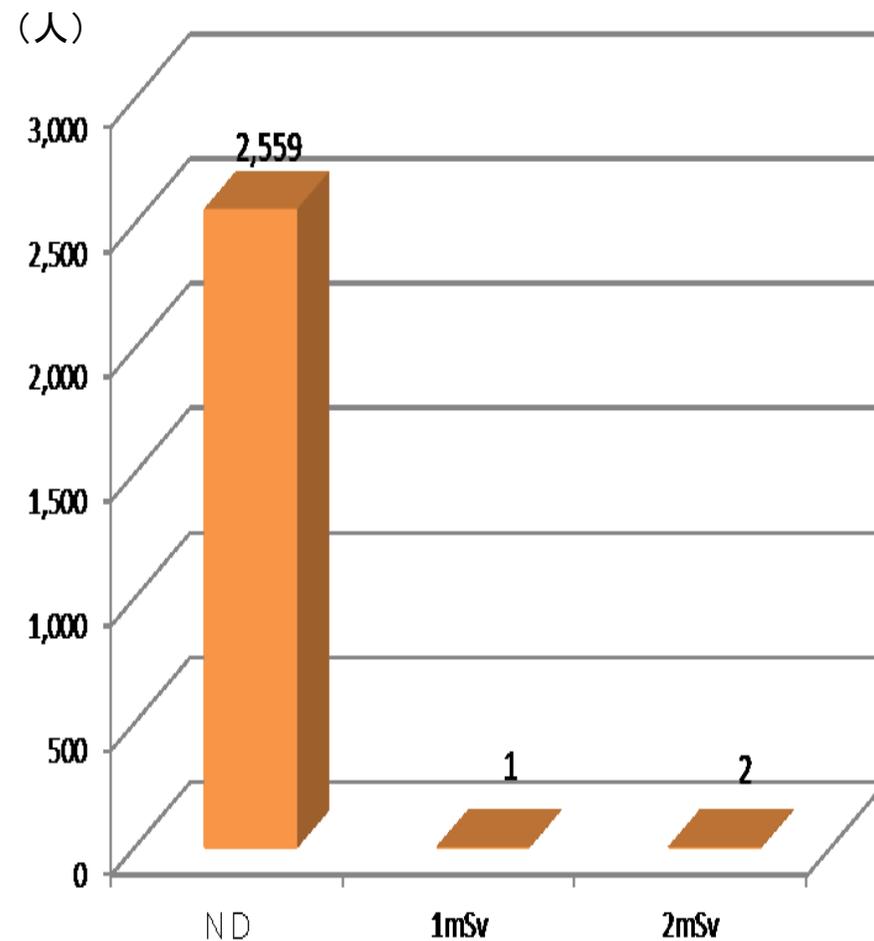
■全町民8,131人（23年秋）のうち、平成25年10月末までにWBC検査を受検したのは、延べ2,562人。

このうち1 mSv以上の内部被ばく者は23年9月の検査で3人検出。

▶延べ2,562人の受検者のうち、2回受検者は257人、3回受検者は24人、4回受検者は2人。

(参考)検査場所

・常磐病院、平田中央病院、Jウエルツメディカルセンター、福島県庁、会津大学、河東、共立、東海、新潟、放医研、楡葉町、環境省



2-①簡易分析測定器による食品の放射能レベルの測定結果

■ 榑葉町公民館に設置した放射線簡易分析装置による、住民持ち込み検体の放射線測定結果は以下のとおり。

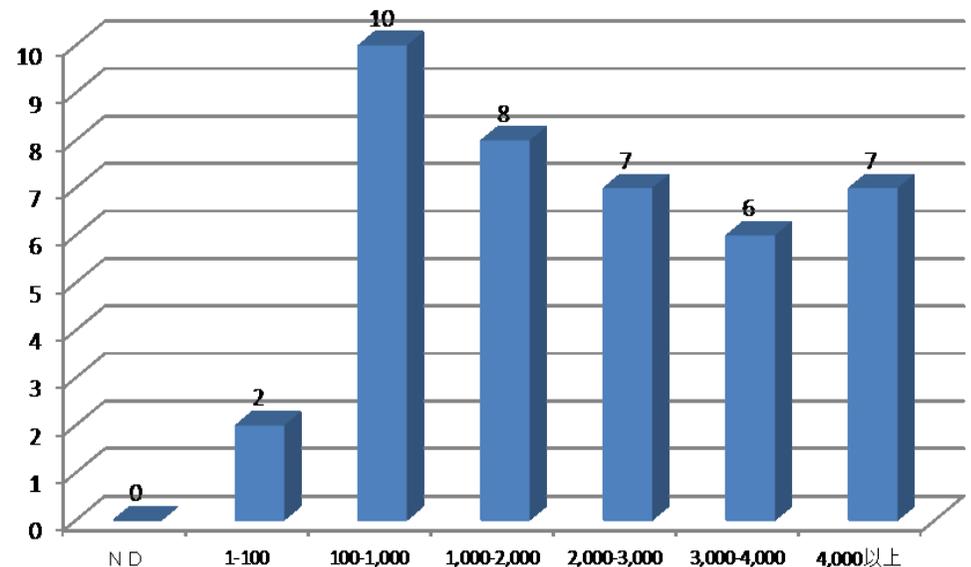
※平成24年8月20日～25年11月7日までに持ち込まれた検体(528件)の計測結果をキノコ類、米、果実、水、動物、その他(山菜等)に分類。

➤ キノコ類は持ち込まれた検体の全てにおいて検出。

線量が最も高いのは、桜しめじで15,122Bq/kg。

※桜しめじ、クリモダシ、猪鼻、ヒラ茸、舞茸、松茸他

キノコ類(総数:40件)

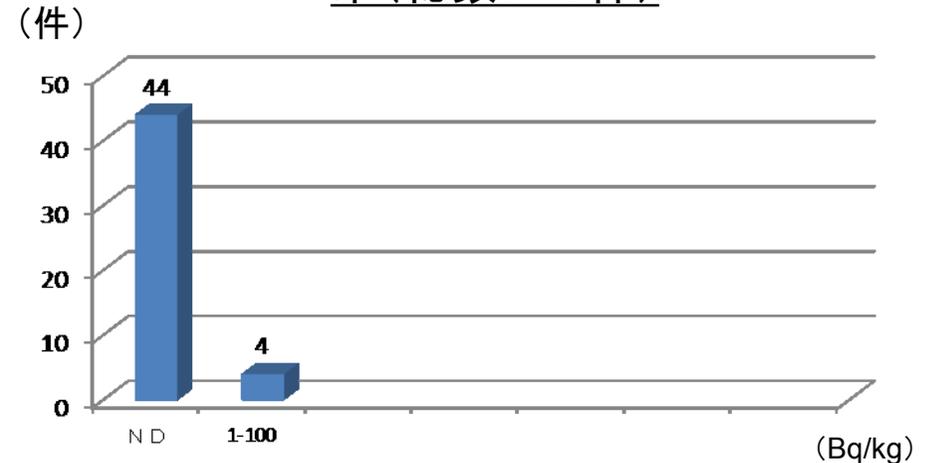


2-②簡易分析測定器による食品の放射能レベルの測定結果

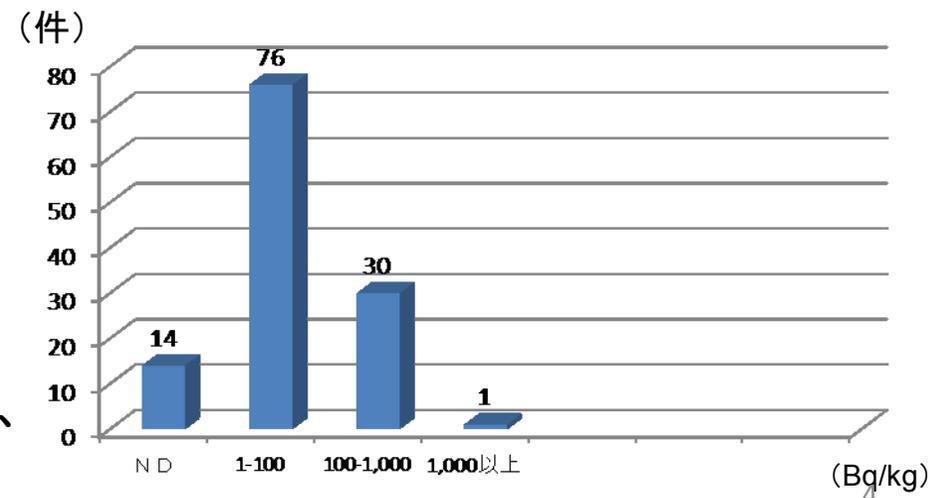
- 8割はND。
高いものでも13Bq/kg。

- 検査対象としては、柿、栗、柚子が多い。
- 最も高い線量は栗で2,631Bq/kg。
- 基準値(100 Bq/kg)を上回ったのは全体の26%。
※柿、栗、柚子、梅、キンカン、キウイ、みかん、イチジク他

米(総数:48件)

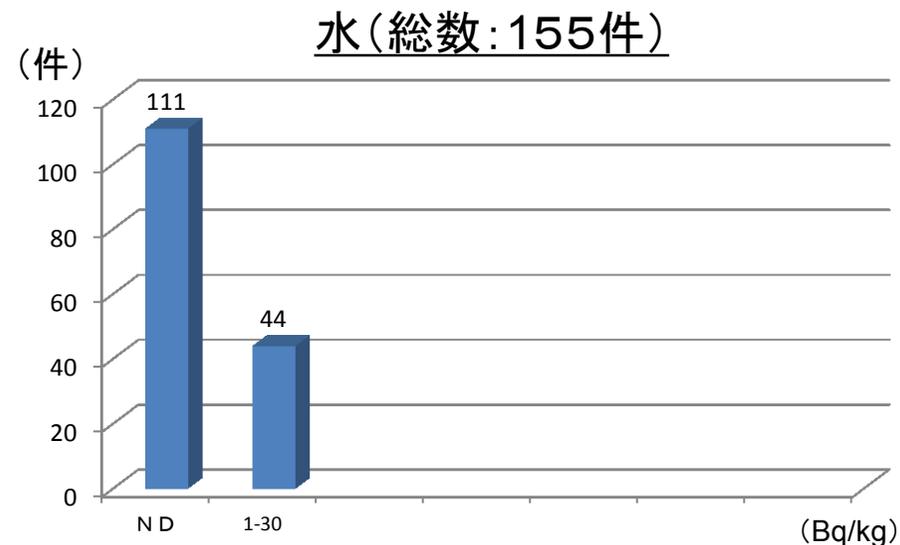


果実(総数:121件)

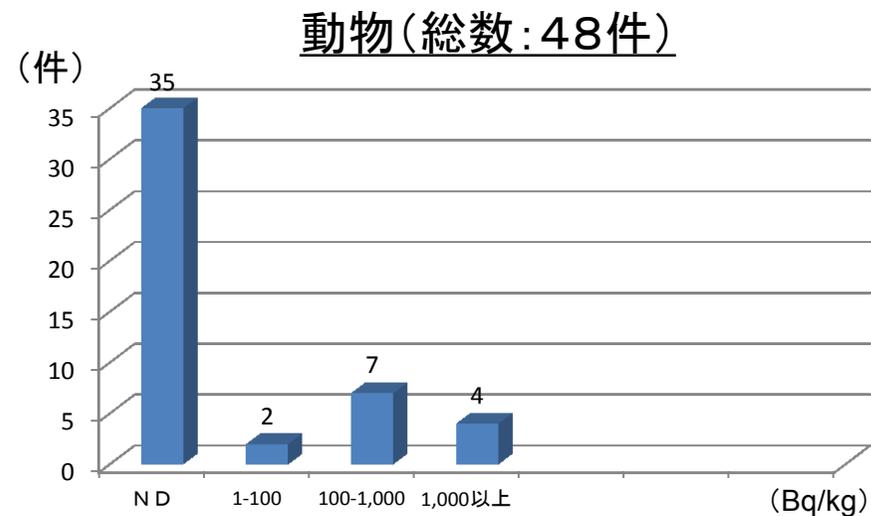


2-③簡易分析測定器による食品の放射能レベルの測定結果

- 7割がND。高いものでも22Bq/kg。
※井戸水、沢水、湧水

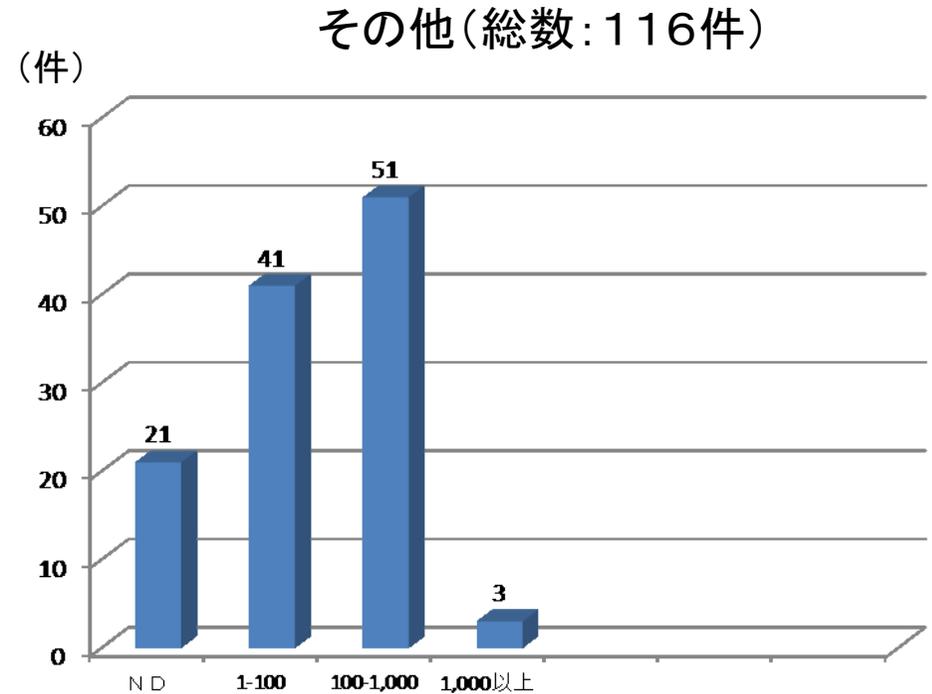


- 7割がNDだが、7,924Bq/kgと高線量の猪が存在。
※猪、キジ、鴨、鮭、鮎、イクラ



2-④簡易分析測定器による食品の放射能レベルの測定結果

- 検査対象は山菜が主。
中でもたらの芽が高く5,090Bq/kg
のものが存在。
※たらの芽、ゼンマイ、ワラビ、筍、ふきのとう、そばの実他



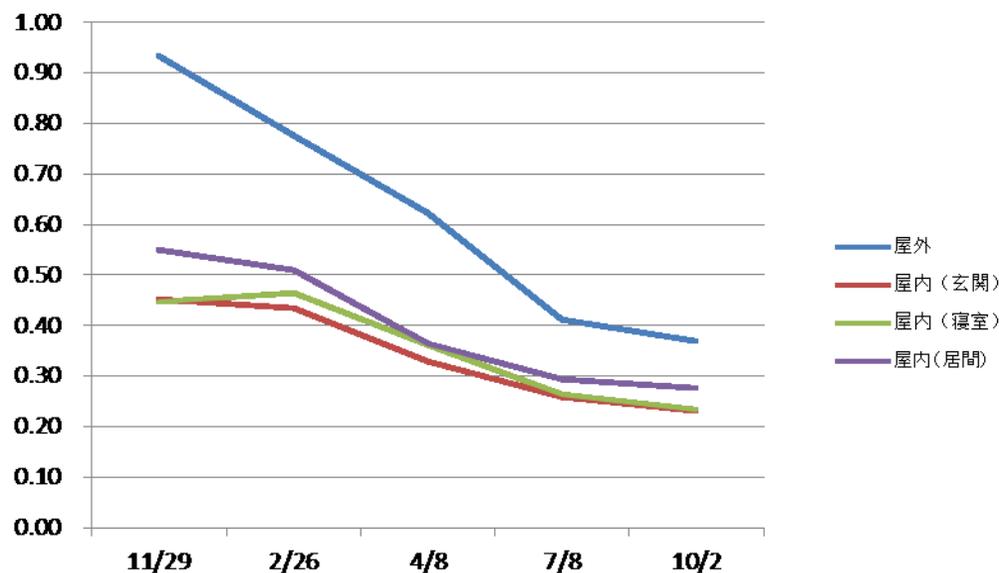
3 環境ガラスバッチによる住宅の放射線量の計測結果

■環境ガラスバッチによる個人宅の定点観測を実施。

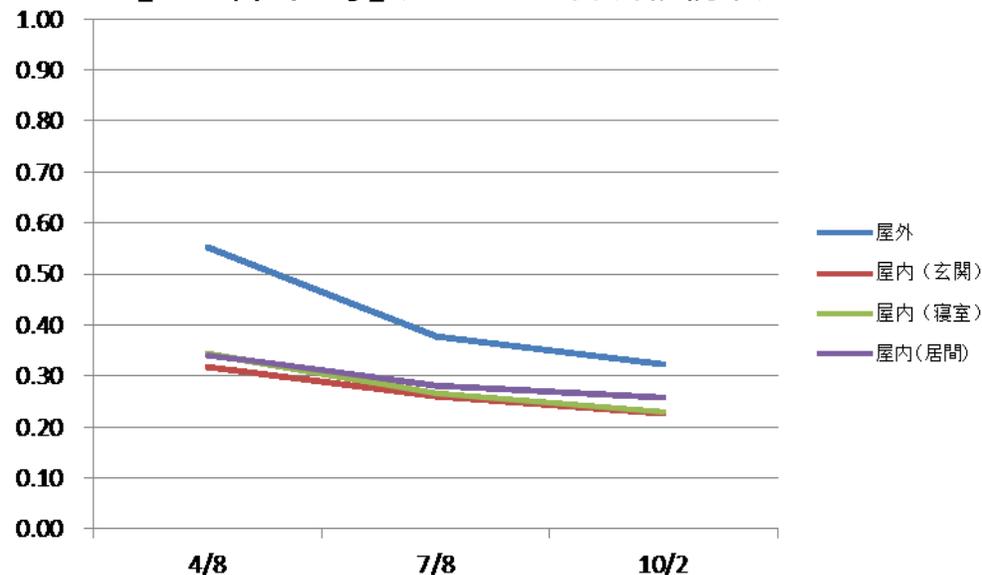
(注)平成24年11月から10軒を計測開始。その後平成25年4月から6軒の計測を追加。(個別データは別添資料2参照)

- 日を追って線量は減少。室内の平均値は、 $0.3 \mu\text{Sv/h}$ を下回る数値となっている。

($\mu\text{Sv/h}$) 【10軒平均】(h24.11.29~計測継続中)



($\mu\text{Sv/h}$) 【16軒平均】(h25.4.8~計測継続中)



4 農地土壌の放射線量計測について

- 国による農地除染後の土壌放射線量を町独自で計測。放射性物質の濃度低減確認を実施。

※作業方法: 檜葉町11地区の農地(水田)220か所の土壌中放射性セシウム濃度をゲルマニウム半導体検出器を用いて測定。(別添資料4参照。)

グラフ、コメント掲載

(測定実施中に付き次回以降掲載)

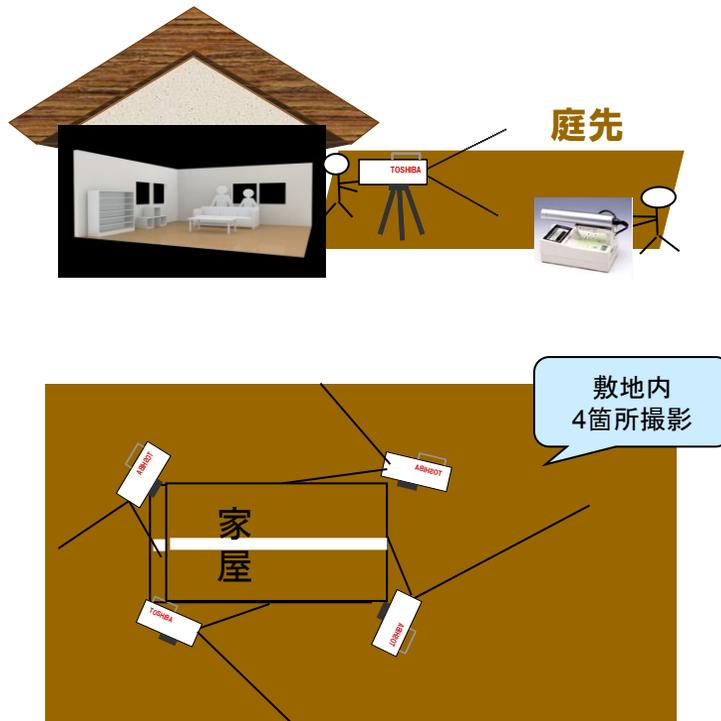
濃度分布図掲載

(測定実施中に付き次回以降掲載)

5 ガンマカメラによる放射線可視化測定について

- 主に住宅除染後の放射線を可視化。11月から3月末にかけて1,250世帯を対象に実施予定。
- シンチレーションサーベイメータによる計測と合わせて、除染の低減効果確認とともにリスクコミュニケーションに活用する。

※線量範囲:0.1 μ Sv/h～ センサー:半導体検出素子 撮影時間:20分程度



【敷地内撮影のイメージ】



7 今後予定している放射線量計測について

- (1) 屋内の放射線汚染度計測
- (2) ダストサンプリング計測